

For Investors · Not for the Exam

# 投資家のための簿記エッセンス

資格は要らない。財務諸表（決算書）が読めればいい。

📖 読了めやす 約30分

🎓 高校生でも読める設計

🗑️ 捨てる範囲も明記

📚 学習用・投資助言ではありません

簿記2級の試験範囲には、**投資家には使わない「帳簿のつけ方」**が大量に含まれています。このまとめは、決算書を読んで投資判断するために**本当に必要な部分だけ**を抜き出したものです。「自分で帳簿をつける力」ではなく「**できあがった決算書を読み解く力**」に絞っています。

## CONTENTS

01 何を学び、何を捨てるか

02 複式簿記の超基本（土台）

03 財務三表の読み方（本丸）

04 投資で誤読しやすい勘定科目

05 連結会計の考え方

06 投資判断に効く指標

07 実例で比べる5社の指標

## SECTION 00

## まず結論 — 何を学び、何を捨てるか

投資家のゴールは「決算書を読むこと」。だから、簿記試験の主役である**記帳の手続き**（仕訳・帳簿づくり）は**ほぼ捨ててOK**です。下の左側だけ押さえれば十分戦えます。

✓ **学ぶ（投資に直結）**

- ✓ 複式簿記の「考え方」（借方・貸方）
- ✓ 財務三表（BS / PL / CF）の構造と読み方
- ✓ 主要な勘定科目の意味
- ✓ 減価償却・のれん・引当金・減損
- ✓ 連結会計の「考え方」（親子・非支配株主）
- ✓ 投資指標（ROE・PER・配当など）

✖ **捨てるOK（資格用）**

- ✖ 仕訳の暗記・伝票・帳簿への記入実務
- ✖ 工業簿記の原価計算の手続き全般
- ✖ 個別原価計算・総合原価計算の細かい計算
- ✖ 標準原価差異分析
- ✖ 精算表・帳簿の締め切り手順
- ✖ 商品有高帳・手形記入帳などの記帳

★ **一言で**

投資家は「決算書を書く人」ではなく「読む人」。だから書き方（簿記試験の中心）は飛ばし、読み方に集中する——これが最短ルートです。

## SECTION 01

# 複式簿記の超基本（これだけでいい土台）

簿記のすべての土台は、ひとつの取引を必ず「2つの面」から記録するという発想です。むずかしく見えますが、要は「お金には必ず**出どころ**と**使い道**がある」というだけの話です。

**借方（かりかた）** = 左側 … お金の「使い道」（何に変わったか）

**貸方（かしかた）** = 右側 … お金の「出どころ」（どこから来たか）

## ● 具体例：銀行から現金100万円を借りた

左（借方）＝使い道

右（貸方）＝出どころ

現金 **+100万円**

（手元の現金が増えた）

借入金 **+100万円**

（銀行から借りた＝あとで返す）

このように記録すると、左の合計と右の合計は**必ず一致**します。これが、次に出てくる貸借対照表（BS）の**左右がピッタリ釣り合う理由**です。

### 💡 投資家の使い所はここだけ

「お金には出どころ（右）と使い道（左）がある」という感覚さえ持てれば十分。**自分で仕訳を切れるようになる必要はありません。**

## SECTION 02

# 財務三表の読み方（ここが本丸）

決算書は3枚で1セット。それぞれ**見ている時間軸と問い**が違います。まずこの3つの役割の違いを押さえましょう。

## BS

### 貸借対照表

ある一時点の財産状態

潰れにくい？

## PL

### 損益計算書

1年間の経営成績

儲かっているか？

## CF

### キャッシュフロー計算書

1年間の現金の動き

現金は本当にあるか？

## ● 2-1. 貸借対照表（BS） — 財務の健全性

左に「持っているもの（資産）」、右に「そのお金の出どころ」を並べた表です。右は他人のお金（負債＝返す必要あり）と自分のお金（純資産＝返さなくていい）に分かれます。

### 資産（持っているもの）

- ・流動資産（1年以内に現金化）  
現金・売掛金・在庫 など
- ・固定資産（長く使う）  
土地・建物・機械 など

### 負債（他人のお金・要返済）

借入金・買掛金 など

### 純資産（自分のお金・返済不要）

資本金・利益剰余金（過去の利益の蓄積）

※「流動」＝1年以内、「固定」＝1年超。この1年基準だけ覚えればOK。

## 投資家が見るべき3点：

見るもの	計算	意味・めやす
自己資本比率	純資産 ÷ 総資産	財務の安全性。40%以上で優秀、20%未満は要注意（業種による）
流動比率	流動資産 ÷ 流動負債	短期の支払い能力。200%が理想、100%割れは要注意
利益剰余金	—	プラスで積み上がっていれば◎。マイナスは累積赤字

## ● 2-2. 損益計算書 (PL) — 稼ぐ力

PLは「5段階の利益」が命。売上から費用を順番に引いていきます。どの段階で利益が削れているかを見ると、会社の弱点が分かります。

### ① 売上総利益 (粗利)

売上 - 売上原価。商品・サービスそのものの強さ

### ② 営業利益

★最重要 粗利 - 販管費 (人件費・広告費)。本業の儲け

### ③ 経常利益

営業利益 ± 利息・為替など。本業+お金のやりくりの通常実力

### ④ 税引前利益

経常利益 ± 特別損益 (一過性の売却益や損失)

### ⑤ 当期純利益

税金を引いた後。最終的に株主に残る利益

#### 数字で追う具体例 (売上1,000のカフェチェーン)

売上高 1,000 → ①売上原価 400 を引いて **粗利 600** → ②人件費・家賃など販管費 450 を引いて **営業利益 150** (本業でしっかり稼げている) → ③借入の利息 20 を引いて **経常利益 130** → ④古い店舗売却益 50 を足して **税引前利益 180** → ⑤税金 54 を引いて **当期純利益 126**。

**ここに罫**：⑤の126だけ見ると好調に見えますが、その中身には「店舗売却益50 (来年はもうない一過性のお金)」が含まれています。**本当の実力は②営業利益150**。だから投資家は②を重視するのです。(単位は百万円でも億円でも、見方は同じ)

#### 読み筋

一番大事なのは②**営業利益 (本業の儲け)**。⑤の当期純利益は、土地の売却益や災害損失など**一過性の数字 (特別損益)** で大きくブレるので、会社の継続的な実力を見るなら②を重視します。

## ● 2-3. キャッシュフロー計算書 (CF) — 現金の実態

ここが投資家にとっての**隠れた主役**です。PLの利益は「会計上の数字」で、**手元の現金とはズレます**。たとえば「商品を買った (=売上・利益は計上)」けれど「代金はまだ

受け取っていない（＝現金は増えていない）ことが起きるからです。CFは実際の現金の出入りを3つに分けます。

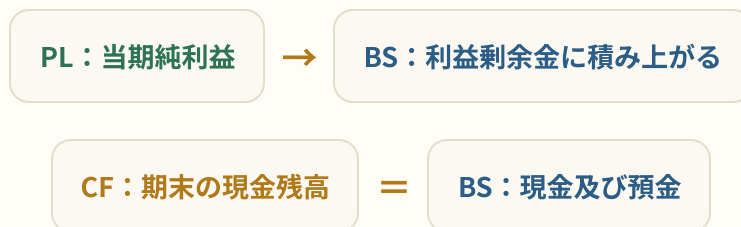
区分	内容	健全な姿
営業CF	本業で稼いだ現金	プラスが必須
投資CF	設備投資・買収・資産売却	通常マイナス（投資しているから）
財務CF	借入・返済・配当の支払い	状況による

△ 最強の読み筋：利益とCFを比べる

利益は出ているのに営業CFがマイナスなら危険信号。売上は立てたが現金を回収できていない（＝黒字倒産リスク）、または利益を水増ししている疑いがあります。逆に、営業CFから投資CFを引いた「フリーキャッシュフロー（FCF）」がプラスなら、自由に使える現金を生む優良企業です。

● 2-4. 三表のつながり（一気に理解が進む）

3枚はバラバラではなく、利益と現金を通じて連動しています。




この連動が腑に落ちると、決算書が立体的に見えてきます。

SECTION 03

# 投資で誤読しやすい勘定科目（やさしく解説）

ここは「知らないと決算書を読み違える」5つの言葉です。むずかしそうですが、**どれも身近なたとえに置き換えれば一発で分かります**。各項目は「ひとことと言うと → なぜ投資家に大事か」の順で読んでください。

## ● ① 減価償却（げんかしょうきやく）

 身近なたとえ：200万円の車を10年乗るなら、「1年あたり20万円ずつ使った」と考えるのと同じ。

**ひとことと言うと：高い買い物（機械・建物など）の代金を、買った年に全部費用にせず、使う年数で割って毎年ちよとずつ費用にすること。**1,000万円の機械を10年使うなら、毎年100万円ずつ費用として計上します。

### なぜ投資家に大事か

ポイントは「**お金（現金）は買った年に払い終わっているのに、費用だけはその後も毎年出てくる**」こと。だから「帳簿上の利益」と「実際の手元の現金」がズレます。このズレを生む一番の犯人が減価償却です。

※ おまけ：営業利益にこの減価償却費を足し戻したものを**EBITDA（イービットディーエー）**と呼び、工場の多い会社を比べるときに使います。言葉だけ覚えておけば十分。

## ● ② のれん

 身近なたとえ：純資産1億円のお店を、ブランド力を見込んで3億円で買った。この差額2億円が「のれん」。

**ひとことと言うと：会社が別の会社を買収するとき、相手の純資産（正味の財産）より高く払った「上乗せ分」のこと。**その上乗せは、相手のブランド力や将来の稼ぐ力への期待にお金を払った、ということです。

#### △ なぜ投資家に大事か（日米で差が出る）

この「のれん」の扱いが日本と海外で違うのがポイント。

- ・日本基準：毎年少しずつ費用にする（＝その分、毎年利益が減る）
- ・米国基準・IFRS：費用にせず、価値が落ちた時だけ一気に損を出す（＝普段は利益が減らない）

つまり同じM&Aをしても、海外基準の会社のほうが利益が大きく見えやすい。米国株を見るとき覚えておくとよい差です。のれんが資産の大部分を占める会社は、後から大きな損（減損→④）が出るリスクを抱えています。

### ● ③ 引当金（ひきあてきん）

💡 身近なたとえ：将来の出費に備える「先取り貯金」。まだ払っていないけど、出そうな金額を前もって費用にしておく。

ひとことと言うと：将来かかりそうな出費を、あらかじめ「見積もって」今年の費用に入れておくもの。例：社員の退職金に備える「退職給付引当金」、回収できなさそうな売掛金に備える「貸倒引当金」。

#### 💡 なぜ投資家に大事か

キモは「見積もり＝経営者のさじ加減が入る」こと。多めに積めば今年の利益は減り、少なく積めば利益は増えます。つまり利益を調整する余地がある場所。引当金が急に増えたり減ったりしていたら「なぜ？」と疑う目を持つとよいです。

### ● ④ 減損（げんそん）

🚫 身近なたとえ：3億円で買ったお店が、思ったより儲からず「実質1億円の価値しかない」と認めて、差額2億円を損として計上すること。

ひとことと言うと：過去に買った資産（工場や、②ののれんなど）の「将来の稼ぐ力」が落ちたと判明したとき、帳簿の金額を切り下げて損失にすること。早い話、過去の投資の失敗を認めて後始末する処理です。

#### 💡 なぜ投資家に大事か

減損はドカンと一度に出るのでその年の最終利益（⑤当期純利益）は大きく悪化します。でもこれは過去の失敗の精算であって、今の本業の現金が出ていくわけではない（一過性）。だから減損が出た年でも、慌てずに②営業利益で本業の実力を見るのが正解です。

### ● ⑤ 繰延税金資産（くりのべぜいきんしさん）

✎ 身近なたとえ：「将来、税金を安くしてもらえる割引券」を資産として持っている状態。ただし将来きちんと儲からないと使えない。

ひとことと言うと：会計のルールと税金のルールのズレから生まれる、「**将来の税金が安くなる権利**」を資産として計上したもの。細かい計算はまったく覚えなくてOKです。

#### 💡 ここだけ覚える

この「割引券」は「**将来ちゃんと利益が出る**」前提で計上されています。もし業績が悪化して「**将来も儲からなさそう**」となると、その前提が崩れて**割引券が無効に＝取り崩して追加の損失**になります。業績不振の会社で繰延税金資産が大きいと、二段階目の損が出る危険サイン、と知っておけば十分です。

## SECTION 04

# 連結会計の考え方（2級の目玉・考え方だけ）

大企業は親会社単体ではなく、子会社も含めた**グループ全体（連結）の数字**で見ます。投資判断は基本的にこの「連結」を見ます。覚えるのは2語だけ。

**連結**… 親会社+子会社をまとめた数字。投資家が見るのはこっち。

**非支配株主持分**（旧・少数株主持分）… 子会社のうち、親会社が持っていない部分。

### 💡 ここだけ

たとえば子会社の70%だけ親会社が持っている場合、残り30%は**他人（外部株主）のもの**。連結利益のうちその30%分は、自分（親会社の株主）の取り分ではない——と理解すれば十分です。細かい連結の計算手続きは投資家には不要。

## SECTION 05

# 投資判断に効く指標（ここが目的地）

簿記そのものではなく「財務分析」ですが、簿記を理解して初めて使えます。投資家にとってはここがゴール。まず**収益性・安全性・株価の割安度・配当**の4グループで押さえましょう。

### ● まず2つの「1株あたり」を押さえる

**EPS（1株利益）** = 当期純利益 ÷ 株式数。1株がいくら稼いだか。

**BPS（1株純資産）** = 純資産 ÷ 株式数。1株あたりの会社の純財産。

この2つが、下のPER・PBRの計算に出てきます。

## ● 主要指標まとめ

指標	計算式	見るもの	ざっくり目安
<b>ROE</b> 自己資本利益率	当期純利益 ÷ 自己資本	株主のお金で稼ぐ効率	<b>8~10%以上</b> で合格圏
<b>ROA</b> 総資産利益率	利益 ÷ 総資産	資産全体の効率	5%以上で優秀
<b>自己資本比率</b>	純資産 ÷ 総資産	財務の安全性	40%以上で安心
<b>営業利益率</b>	営業利益 ÷ 売上高	本業の収益力	業種比較で判断
<b>PER</b> 株価収益率	株価 ÷ EPS	利益に対する割高/割安	業種・成長率しだい
<b>PBR</b> 株価純資産倍率	株価 ÷ BPS	純資産に対する割高/割安	1倍割れは割安シグナル (※下記注意)

## ● 配当の指標 (投資家には必須)

指標	計算式	意味
配当利回り	1株配当 ÷ 株価	株価に対して年いくら配当をもらえるか (%)
配当性向	配当総額 ÷ 当期純利益	利益のうち何%を配当に回しているか。高すぎると無理をしている可能性、低いと余力あり

### ⚠ 指標の落とし穴

**PBR1倍割れ=必ず割安、ではありません。**成長性が乏しく市場に見放されて「万年割安」のままの会社もあります。指標は単独で判断せず、複数を組み合わせて見ましょう。また目安の数字は業種・市況で大きく変わります。

### ★ 一段上の分析：ROEの分解（デュボン分解）

ROEは **売上高純利益率 × 総資産回転率 × 財務レバレッジ** の3つに分解できます。高ROEが「本当に稼ぐ力」によるものか、それとも「借金（レバレッジ）を効かせているだけ」なのかを見分けられると、企業の質を一段深く評価できます。

## SECTION 06

# 実例で比べる — 5社の指標を並べて読む

ここまでの指標を、実在の5社で並べてみます。**タイプの違う5社**を選びました。数字そのものより「**なぜこの差が出るのか**」を読む練習として使ってください。

※ 2026年6月初時点・各社の直近本決算後の概算値（PER・配当利回りは予想、ROE・自己資本比率は実績/予想ベース）。株価は日々動くので、数字は「桁感・傾向」をつかむためのものと考えてください。出典は各社IRおよび各種株式情報サイト。

指標	リクルートHD 6098	アドバンテスト ト 6857	ソニーG 6758	ファナック 6954	キオクシア HD 285A
事業イメージ	人材・販促・ Indeed	半導体検査装置	ゲーム・映画・半導 体	産業用ロボット・ FA	半導体メモリ
時価総額	約15.5兆円	約19兆円	約21兆円	約8兆円	約36兆円
PER (予想)	約17.5倍	約42倍	約17.5倍	約42倍	変動大 (後述)
PBR (実績)	約7~9倍	約24倍	約2.5倍	約4.2倍	約28倍
ROE	約39%	約58%	約14%	約10%	約52%
自己資本比率	約57%	約68%	約52%	約89%	約38%
配当利回り (予想)	約0.33%	約0.22%	約1.0%	約1.5%	無配 (0%)

緑のセル = その指標で最も高い、赤のセル = 最も低い会社。良し悪しではなく「特徴」を示しています。

## ● 1社ずつ「指標から人物像を読む」

### 6098 リクルートHD — 高ROEの優等生

ROE約39%は驚異的な高さ。これはIndeedなどのネット事業が「大きな設備を持たずに稼ぐ」ビジネスだから。少ない元手で大きく稼ぐので、株主の効率（ROE）が跳ね上がります。自己資本比率57%と財務も健全で、ROEの高さが借金頼み（レバレッジ）ではなく本業の収益力から来ていると読めます（=デュポン分解でいう「利益率」が高いタイプ）。配当利回りは低めですが、これは利益を配当でなく成長投資・自社株買いに回している会社でありがちな姿です。

### 6857 アドバンテスト — 期待を織り込んだ成長株

PER約42倍・PBR約24倍はかなり高い。これは「割高で危険」と即断するものではなく、市場が将来の大きな利益成長を株価に織り込んでいるサイン。AI向け半導体検査装置の需要拡大で利益が急増しており、投資家が先回りして買っている状態です。

ROE約58%・自己資本比率68%は5社でも上位。稼ぐ力も財務の頑丈さも一級品。ただしPERが高い株は、期待が外れて成長が鈍ると株価の下落も大きいのがリスク。「良い会社」と「割安な株」は別物だと体感できる好例です。

### 6758 ソニーグループ — 巨大な複合企業（コングロマリット）

PER約17.5倍・PBR約2.5倍は5社で最も控えめ。ゲーム・映画・音楽・半導体・金融と事業が多岐にわたる複合企業で、成長期待が一点集中の半導体専業（アドバンテスト）ほど跳ねないため、指標は落ち着いています。

ROE約14%は「合格圏（8～10%以上）」を十分クリアする優良水準。配当利回り約1.0%と株主還元もそこそこ手厚い。派手さより安定感で評価されるタイプです。

※実績ROEに一時マイナス表示が出るがありますが、金融子会社の分離など一過性の会計要因によるもので、継続事業ベースでは14%台です。これも「特別損益で最終利益はブレる→実力は本業で見る」の実例です。

### 6954 ファナック — 財務最強の堅実企業

自己資本比率約89%は5社で断トツ。これは「会社の財産のほとんどが自分のお金で、借金がごくわずか」という意味で、極めて潰れにくい超健全企業です。手元の現金も潤沢で、不況に強いタイプ。

一方でROEは約10%と5社で最も低い。これは悪いことではなく、自己資本をたっぷり抱える＝分母が大きいため、効率（ROE）の数字は控えめに出るという構造です。安全性と効率はしばしばトレードオフ（あちらを立てればこちらが立たず）になる——という典型例。PERが約42倍と高いのは、ロボット・FA需要の回復期待を織り込んでいるためです。

### 285A キオクシアHD — 市況で大きく揺れるシクリカル株

半導体メモリ専業で、業績が市況（メモリ価格）に大きく左右される「シクリカル（景気循環）株」の代表格。今はAIデータセンター向け需要で好況のため、ROE約52%と高く出ています。2024年末の上場後、株価は1年で大きく上昇し、時価総額は約36兆円とソニーをも上回る規模まで膨らみました（2026年6月時点）。ただしメモリ市況は数年単位で好不況を繰り返すため、この高ROEと高評価がずっと続くとは限らないのが要注意ポイントです。

無配（配当0%）なのは、稼いだお金を巨額の設備投資（工場・製造装置）に回す必要があるから。自己資本比率約38%と5社で最も低めなもの、設備投資に借入を使う装置産業らしい姿です。「好況時の高ROEに飛びつくと、不況入りで急落して痛い目を見る」——シクリカル株の難しさを学ぶ教材として最適な銘柄です。

✦ この5社比較でつかんでほしいこと

- ① PERが高い=悪、ではない。将来の成長期待の表れ（アドバンテスト・ファナック）。
- ② ROEが高い理由・低い理由を分解して読む。リクルートは「利益率の高さ」由来、ファナックの低めROEは「自己資本が分厚い」から。数字の裏側を読む。
- ③ 安全性と効率はトレードオフになりがち。財務最強のファナックはROEが控えめ。
- ④ シクリカル株の好況時ROEは鵜呑みにしない（キオクシア）。市況が反転すると一変する。
- ⑤ 配当の有無・高低は会社の方針。無配=悪ではなく、成長投資型の選択。
- ⑥ 同じ指標でも業種が違えば意味が変わる。だから比較は「同業同士」が基本です。

SECTION 07

## 5分チートシート（これだけ覚える）

- ★ BSは「潰れにくさ」、PLは「儲け」、CFは「現金の真実」。
- ★ PLで一番大事なのは営業利益（本業の儲け）。
- ★ 利益が出ていても営業CFがマイナスなら危険（黒字倒産・水増しの疑い）。
- ★ 当期純利益 → BSの利益剰余金に積み上がる。三表は連動している。
- ★ 減価償却=現金が出ない費用。だからPL利益とCFはズレる。
- ★ のれんは日本=償却、米国/IFRS=非償却（減損のみ）。日米で利益感が変わる。
- ★ 特別損益・減損は一過性。実力は営業利益で見える。
- ★ 投資家が見るのは「連結」。非支配株主の分は自分の取り分ではない。
- ★ 指標はまず ROE・自己資本比率・営業利益率・PER・PBR・配当利回り。
- ★ PERが高い=割高で悪、ではない。将来の成長期待の表れ。比較は同業同士で。

★ 「自分で帳簿をつける」スキルは投資には不要。読めればいい。

◆ ご利用にあたって（免責事項）

本資料は、財務諸表の読み方を学ぶための教育・学習を目的とした一般的な解説です。

特定の銘柄の売買を推奨・勧誘するものではなく、投資助言（金融商品取引法上の投資助言業務）にも該当しません。

実例として挙げた企業名・指標は、**指標の読み方を理解するための題材**であり、その企業への投資を勧めるものではありません。

数値は2026年5～6月時点で各社IR資料および公開された株式情報サイトを参照した概算であり、最新の正確な数値は必ず一次情報（各社の決算短信・有価証券報告書）でご確認ください。株価・指標は日々変動します。

投資の最終判断はご自身の責任で行ってください。本資料の利用により生じたいかなる損失についても、作成者は責任を負いません。